

フィリピンバナナと私たち



ニッポンCSRコンソーシアム
2017年度 ステークホルダー・エンゲージメントプログラム
2017年6月15日

発表 (株)オルター・トレード・ジャパン

そのバナナはどこから来るの？

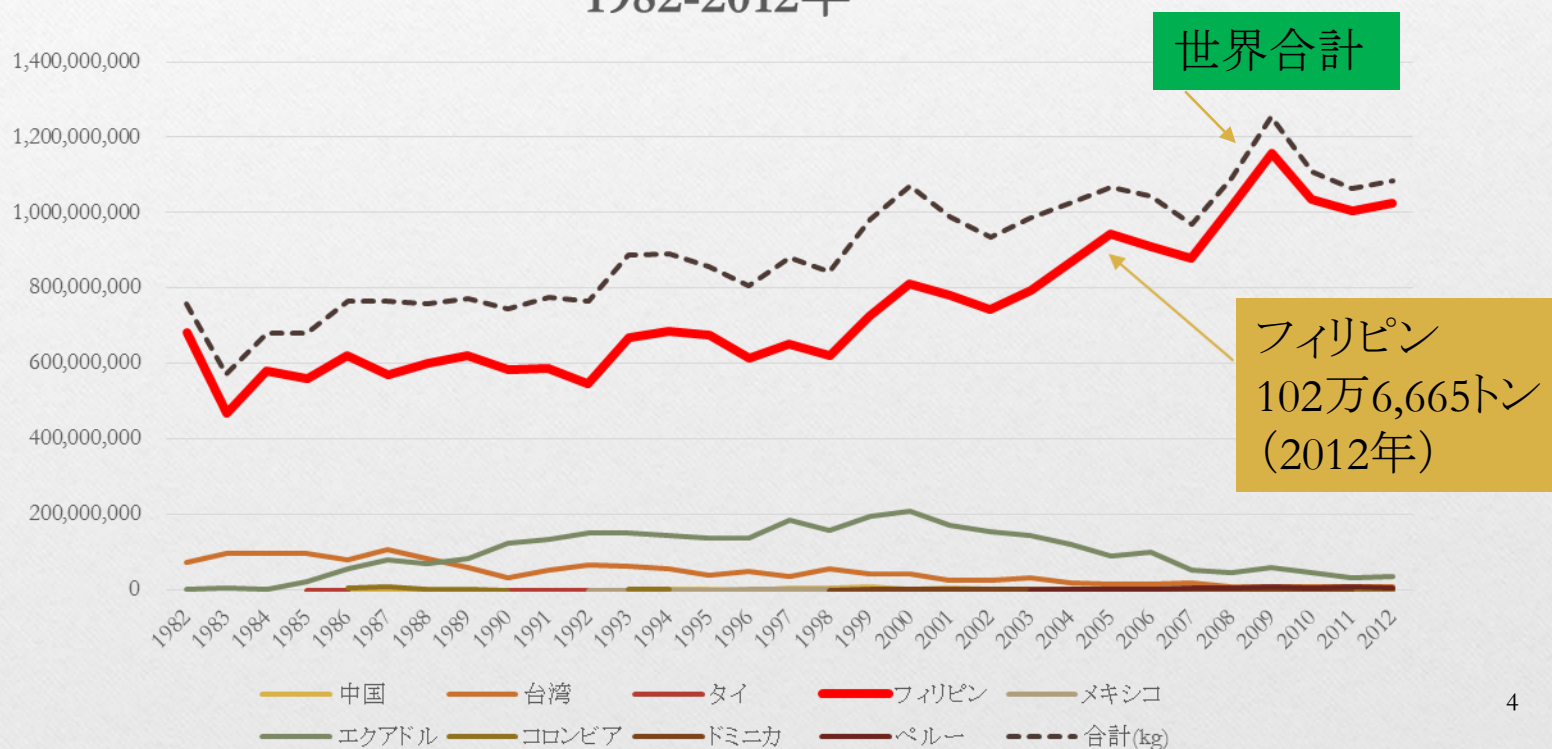


フィリピン



日本の輸入バナナの94.5%はフィリピン産

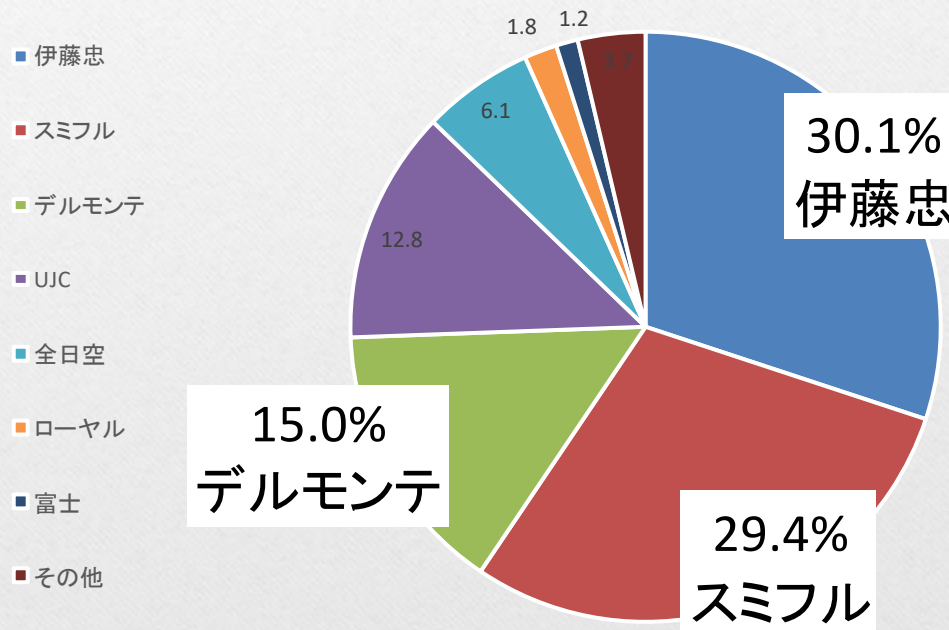
日本の国別バナナ輸入量(kg)
1982-2012年



フィリピン・バナナ輸入上位3社

1. 伊藤忠(ドール)、2. スミフル、 3. デルモンテ

日本の企業別フィリピン・バナナ輸入占有率 2013年



プランテーションの島、フィリピン・ミンダナオ

Export-Oriented Agricultural Economy

Pineapple, Banana, Rubber, Cacao, Coffee, Corn
And Coconut Are Grown And Found In Mindanao

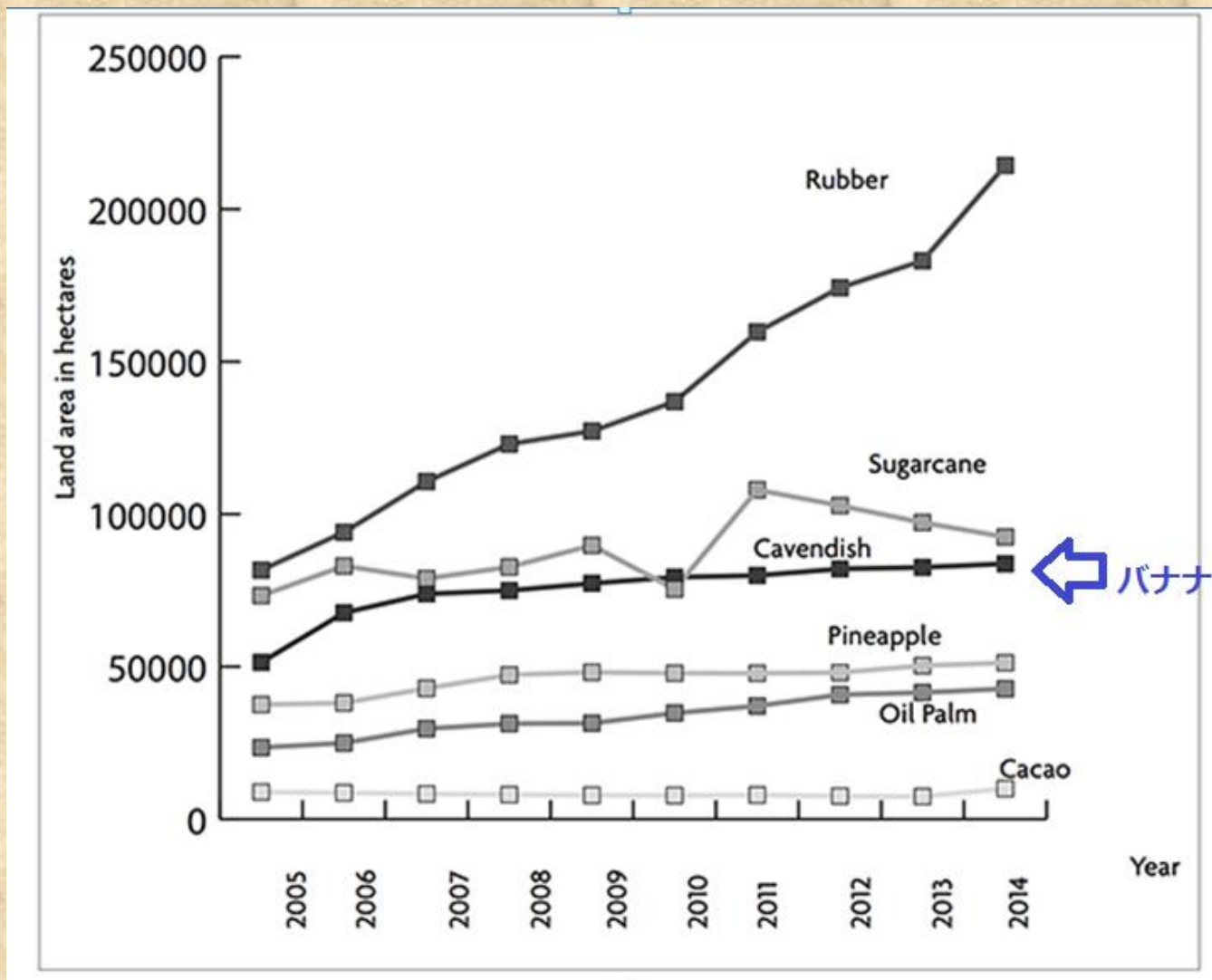


ミンダナオの人びとの生存を脅かすプランテーションの拡大

2015年10月29日

Expansion of agricultural plantations threatens Mindanao people's survival

<http://bulatlat.com/main/2015/10/29/expansion-of-agricultural-plantations-threatens-mindanao-peoples-survival/>



鶴見良行著『バナナと日本人-フィリピン農園と食卓の間』 (1982年)



「安くて甘いバナナも、ひと皮むけば、そこには多国籍企業の暗躍、農園労働者の貧苦、さらに明治以来の東南アジアの歪んだ関係が鮮やかに浮かび上がる」(本書そでより)

本書のもととなった日比共同調査の内容は「人を喰うバナナ」というスライドにまとめられ、市民運動や学校教育の場でさかんに活用され、1980年代はフィリピンバナナへの関心が高まった。

高地栽培バナナ



高地栽培バナナの事例

甘熟王



甘くて美味しい“バナナの王様”、絶品の高糖度系バナナ。

1972年、スミフルはどこよりも早く「最高の美味しさ」を求めて、“高地栽培”のバナナを開発。当時は生産数量も少なく、希少価値のある「幻の美味しいバナナ」とバナナ通の間では知られていましたが、類似の高地栽培バナナも出回るようになり、一般的に知られるようになりました。

『毒の雨ーPoison Rain』

南コタバト州ティボリ町



Milo be el kulon
POISON RAIN





スララ=トラポリ

エドワーズ・エレメン
タリー・スクール
Edward
Elementary School

ティボリ族の村

- 喘息、咳、目の痛みを訴える子どもが多い。
- 水源が遠いため、屋根で集水した雨水使用。空中散布後も皿洗いと洗濯に使用。
- 飲料水は町の中心部で購入。



南コタバト州、空中散布に起因する病気が医療調査で明らかに。
(2014年9月21日)

Fact Finding Mission Finds Evidence of Aerial spray-related Illness in South Cotabato

- カトリック・マルベル司教区社会行動センター、OND-HASED財団がティボリ町の3村で調査。
- 主な症状：腎臓、肝臓、呼吸器系の病気や頭痛、皮膚や目の病気。
- 空中散布による穀物や野菜、水源の汚染。野菜が摂取できないため子どもの栄養状態に影響が出る恐れも。
- ドキュメンタリー「毒の雨」はこの調査をもとに制作。

ミンダナオのバナナ・プランテーションで 現在使用されている農薬①

A. 殺菌剤 (*Trade Name*)

1. Chlorothalonil, TPN(*Daconil*); HHP*, OC**
2. Manzeb(*Dithane/Vondozeb*); HHP*, DC***, ED*
3. Tridemorph(*Calixin*); HHP*
4. Pyrimethanil(*Siganex*); HHP*
5. Difenconazole(*Sico*); HHP*
6. Propineb(*Antracol*); DC***

HHP* ; PAN (国際農薬監視行動ネットワーク) が、
Highly Hazardous Pesticide (非常に有害な農薬) として、
国際機関等に禁止を呼びかけている農薬。

OC** ; Organochloride DC*** ; Dithiocarbamate

ED* ; Endocrine Disrupter (環境ホルモン)

ミンダナオのバナナ・プランテーションで 現在使用されている農薬②

B. 殺虫剤 (*Trade Name*);

Abamectin (*Agrimek 18EC*) HHP

Chlorpyrifos (*Lorsban 3E*) OP*, HHP

Diazinon (*Basudin 600 EC*) OP*, HHP

Imidacloprid (*Confidor 100SL*) Neonicotinoid HHP

C. 除草剤 (*Trade Name*);

Glyphosate (*Round up*) HHP

Paraquat (*Gramoxon*) HHP

OP* ; 有機リン系農薬

フィリピンから日本に輸入されたバナナから検出された農薬 (2014年東京都健康安全研究センター年次報告)

1. アゾキシストロビン Azoxystrobin 0.02ppm 殺菌剤 HHP*
2. ビフェントリン Bifenthrin Tr.,0.02 ヒ○レスロイト○系殺虫剤 HHP*
3. デルタメトリン Deltamethrin Tr. ヒ○レスロイト○系殺虫剤 HHP*
4. クロルピリホス Chloropyrifos Tr.,0.01,0.03
有機リン系殺虫剤 殺虫剤 HHP*
5. TPN Chlorothalonil 0.01 殺菌剤 HHP*
6. イプロジオン Iprodion Tr., 0.05, 2.7** 殺菌剤 HHP*

* HHP; Highly Hazardous Pesticide 国際農薬監視行動ネットワーク (PAN)が国際機関等に禁止を求める有害性の高い農薬

** 残留許容量;10ppm



農薬空中散布反対キャンペーン

- ❑ 1970年代 バナナ・プランテーションで空中散布が開始
- ❑ 2001年 ブキドノン州が条例で空中散布を禁止。
- ❑ 2004年 コタバト州で空中散布禁止条約制定。
- ❑ 2007年 ダバオ市が空中散布を禁止(2016年最高裁で違憲判決)
- ❑ 2014年 全国規模の空中散布禁止法案審議中(共和国法案3857号)
- ❑ 現在 南コタバト州ティボリ町及びスララ町でスミフル・プランテーション空中散布反対運動



バナナ＝環境破壊＋人々のいのち
なぜ「汚いバナナ」なのか？

プランテーションでは見栄えの良いバナナが生産されるが、
人々の健康や福利、環境は危険に脅かされ続けている。

砂糖の島・ネグロス

- サトウキビ・プランテーション（単一栽培）
- 大土地所有制

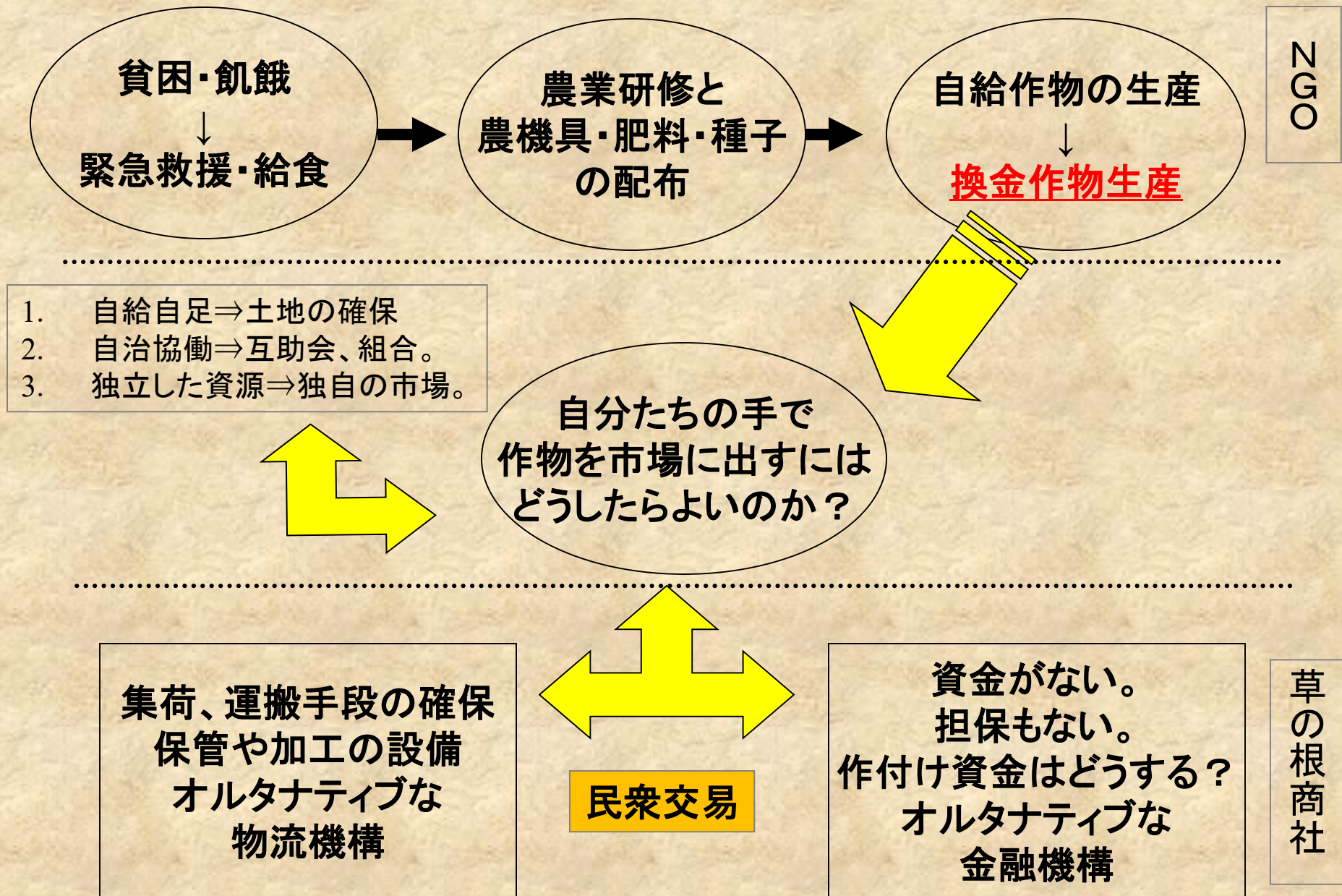


1980年代半ば 砂糖の国際価格暴落
ネグロス島で飢餓発生



1986年 日本ネグロス・キャンペーン委員会(JCNC)発足

飢餓から自立へ民衆交易の構図



balan gon 民衆交易の始まり

- ① ネグロスの人々といっしょに仕事ができるもので、日本の消費者が必要とするものは何？

『**美味しい安全な “balan gon バナナ” はどうだろう！**』

- ② ネグロスの山間に自生していて、人々はバナナに農薬や化学肥料は使っていない。安心して食べられるバナナである。
- ③ 地元の人々の食生活や地域経済に影響を与えない(balan gon バナナは地元ではあまり流通していない)。
- ④ 「バナナ交易」を介して、ネグロスの人々の暮らしと日本の人々のライフスタイルの変革が期待できる。

ミンダナオにおけるバランゴン交易の意義は？

- マキララ町では2000年にドールのバナナ・プランテーションが開発。
- ドンボスコ財団（NGO）は、プランテーション進出に反対したが、雇用を求める住民の声が強く、進出を阻止することができなかった。
- 2013年、プランテーションでの雇用に代わる生計の手段としてバランゴン事業に参画。



ミンダナオ島のバランゴン交易の可能性

